



学会叢書「大震災に備える」セミナー in 名古屋

大震災に備える建築とまちづくり

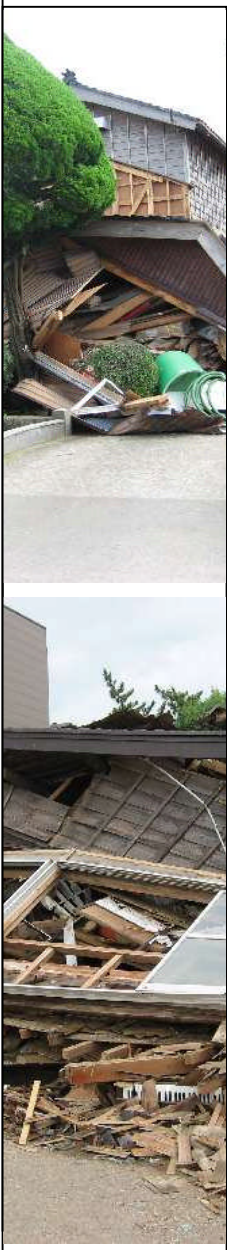
<主催> (社) 日本建築学会, (社) 日本建築学会 東海支部
<共催> (社) 愛知建築士会, (社) 愛知県建築士事務所協会, 愛知建築地震災害軽減システム研究協議会
<後援> 愛知県, 三重県, 名古屋市, (社) 日本建築士会連合会, (社) 日本建築士事務所協会連合会, (社) 日本建築家協会, (社) 建築業協会(申請中)

趣旨

東京～大阪にかけて高い確率で発生が予想される大地震では広域かつ巨大な被害が予想され、その被害軽減への取り組みは、わが国の存続にも関わる喫緊の課題となっています。

本会では、防災まちづくり、復興まちづくりの必要性を広く社会に問いかけることを目的として、学会叢書「大震災に備える(全2巻)」を刊行しました。座して震災を待つのではなく、防災という姿勢から一歩進め、建築界全体が一丸となって震災に備える実行体制を構築していくための第一歩と位置づけています。

本セミナーは、以上の趣旨の下、まずは東京、大阪、名古屋の三大都市圏を対象に、専門家はもちろん、市民、行政等関係者が大震災に備えるための共通認識を形成する一助となることを目標に企画されました。今回の名古屋で開催されるセミナーは、減災のための防災まちづくりの取り組みを中心に企画しました。多数の関係者の方々の参加をお待ちしております。



【日 時】 2010年1月26日(火) 13:30～17:00

【会 場】 名古屋都市センター11F 大研修室

(名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル内)

【内 容】

1. 挨拶 大震災に備えるタスクフォース委員長・首都大学東京 教授 中林一樹
2. 基調講演
 - 1) 大震災の被害予測ー密集市街地の被害想定シミュレーション
加藤孝明(東京大学大学院 助教)
 - 2) 大震災に備える防災まちづくり 中林一樹(前掲)
3. 基調報告
東海地震への備えー市民参加型の地域的取り組み
大貝 彰(豊橋技術科学大学 教授)
4. パネルディスカッション 「防災まちづくりと住宅耐震化を考える」
コーディネーター 大貝 彰(前掲)
パネリスト 川端寛文(愛知県): 県下の住宅耐震化の取り組み
成田完二(愛知建築士会): 耐震診断・補強の支援の取り組み
加藤孝明(前掲)
中林一樹(前掲)

その後、フローアを含めて防災まちづくりと住宅耐震化の取り組み推進について議論

【定 員】 100名(申込先着順)

【参加費】 会員1,000円, 会員外1,500円, 学生500円

(資料代含, 参考図書代別, 当日支払い)

(共催団体、後援団体、市町村の職員は全て会員扱いとします。)

【申込方法】 E-mail 又は F A X(裏面申込書)にて、催物名称、氏名、勤務先(所属)、同電話番号、E-mail アドレスを明記してお申込みください。定員に達した場合は、お断りの方のみご連絡します。

【申込み・問合せ】 日本建築学会 東海支部 E-mail: tokai-sibu@aij.or.jp

【参考図書】「大震災に備える」の内容

I 「大震災に備える」

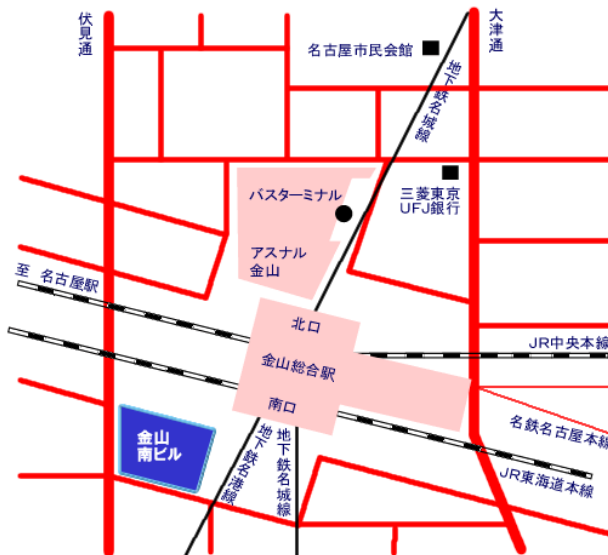
- 1章 日本列島と都市を襲う震災の危険
- 2章 大震災の被害予測－密集住宅地の被害想定シミュレーション
- 3章 大都市の防災まちづくり
- 4章 東海地震への備え－愛知県における市民参加型の地域的取り組み
- 5章 スーパー都市災害に備える防災都市づくり
- 付章 大震災に備える専門家組織の取り組み

II 「復興まちづくり」

- 1章 復興まちづくりの歴史とこれから
- 2章 被害からの復興と専門家の支援
- 3章 阪神・淡路大震災からの教訓－住まいの復興
- 4章 阪神・淡路大震災の教訓－町並みの復興
- 5章 事前と事後－連続復興を支えるコミュニティの力
- 6章 仮設市街地を構想する
- 7章 震災復興まちづくり模擬訓練
- 8章 事前に復興まちづくりに取り組む

セミナーは当日配布する資料に基づいて実施しますので、参考図書が手元になくても聴講可能です。

【会場案内図】



会場：名古屋都市センター 11階 大研修室
金山南ビル内のシースルーエレベーターで上がってください

交通案内：JR、名鉄、地下鉄
「金山駅」南口より徒歩1分

FAX 052-261-0251

大震災に備える建築とまちづくり参加申込み

お名前	
勤務先（所属）	
電話番号	
E-mail アドレス	